



# 特集 福井洞窟

海軍鎮守府とともに近代化の道を歩んだ佐世保には、当時の遺構がたくさん残っています。その陰であまり注目されることのなかった埋蔵文化財ですが、本市には全国で最多となる31もの洞窟遺跡があることを皆さんはご存じですか。

本市はその中の一つ、国指定史跡「福井洞窟」で半世紀ぶりとなる発掘調査を昨年2月に開始。旧石器〜縄文時代の暮らしが明らかにされる発見が相次ぎ、考古学ファンなどから注目が集まっています。

今回の特集では、遺跡に再び光を当てた発掘の様子や調査の成果についてお知らせします。

## 石器が作られた時代

日本列島に人類が進出したのは約4万年前の旧石器時代。寒冷な氷河期を生き延びた旧石器人は、オツノジカなどの獲物を求め移動生活を送っていました。続く縄文時代は約1万5千年前の温暖化をきっかけに始まったと言われています。豊かな森が広がり、大型動物に代わってイノシシやシカが増えました。素早い動物を狩る弓矢や、煮炊きに使用する土器が出現。人々は集落を営んで定住するようになりました。

※写真は標本箱に収められた福井洞窟の出土品と、発掘現場の情報を記録したフィールドノート(野帳)

**目指せ！させば観光マイスター  
おもてなし講演会 & マイスター試験参加者募集!**

①させば観光おもてなし講演会  
旅館業を知り尽くした「観光地再生」の仕掛け人と言われる井門隆夫さん(井門観光研究所代表取締役)を講師に迎え、講演会を開催します。  
とき 8月16日(金) 19時~20時30分  
ところ 九十九島観光ホテル  
料金 無料 定員 300人  
※受講者には「佐世保観光ガイドブック」を差し上げます。

②させば観光マイスター(シルバー)試験  
第2回目となる今回も昨年と同様に「佐世保観光ガイドブック」から9割程度を出題します(合格は80点以上、広報させば6月号参照)。昨年97人中18人が合格されました。皆さんのご応募をお待ちしています。  
とき 8月23日(金) 19時~20時30分  
ところ 九十九島観光ホテル  
料金 無料 定員 300人

①②の申し込み方法  
住所、氏名、性別、電話番号と、「おもてなし講演会希望」または「させば観光マイスター試験希望」を明記し、はがき、ファクス、Eメールのいずれかの方法で、8月12日(月、必着)までに申し込んでください。  
はがき=〒857-0863 佐世保市三浦町21-1 佐世保観光コンベンション協会宛て  
ファクス=23-6750 Eメール=sasebo208@rapid.ocn.ne.jp

☎佐世保観光コンベンション協会(JR佐世保駅構内) ☎23-3369  
観光ガイドブックのダウンロード [http://www.sasebo99.com/sight\\_sasebo/meisterguidebook.shtml](http://www.sasebo99.com/sight_sasebo/meisterguidebook.shtml)

## 広報させば 8月号 目次

03	特集	福井洞窟
09	トピックス	学校給食センター 9月にオープン!
12	トピックス	公共施設を効率的に活用する取り組みにご理解とご協力をお願いします
08	6月定例会市議会	10 市政通信
14	イベント情報	16 施設だより
18	お便り、広報クイズ	
		「みかわち焼の豆皿(2枚セット)」プレゼント
19	させば日和、レシピ「さっぱり!! お酢煮」	
20	暮らしの情報	24 健康と福祉
28	各種お知らせ	29 市政広報テレビ番組、徳育通信
30	市長日記「重点政策への対応について③」	31 シリーズ国際交流など
32	させば de まちコン参加者募集	



原始の人々が暮らした洞窟

# 半世紀ぶりの発掘…何が出てくる?!



付近を流れる福井川の浸食などによってできた洞窟に大昔の人々は暮らしていた。洞窟は間口16.4m、奥行き5.5mの大きさがある



左) 昭和30年代の発掘調査の様子  
右) 鎌木先生(写真右端)から出土品の説明を受ける人たち

最初の発掘調査から半世紀、福井洞窟には今も多く謎が残っています。本市では太古の人々が残したヒントを探るべく、再発掘調査に乗り出しました。

福井洞窟は松浦市との境に近い吉井町福井にあります。およそ50年前、日本の歴史の始まりを考える上で重要な発見がこの洞窟でなされました。昭和35(1960)年、当時洞窟遺跡を重要視していた日本考古学協会は、考古学の第一人者であった芹沢長介、鎌木義昌を担当とする本格的な調査を開始。昭和39年までに3回の発掘を行いました。

## 考古学の定説を覆す発見

最初の発掘調査の結果、それまで旧石器時代のもと考えられていた「細石器」と、縄文土器が同じ地層から見付かり、同時代のものであることが初めて分かりました。

地層の年代は約1万2700年前の縄文時代草創期と測定され、縄文土器が時代に

よって文様などを変えていく過程が明らかになるといっても、発掘された隆起線文土器(帯状の文様を表面に施した土器)が当時最古級の土器であることが確認されました。

発掘は地表から深さ約6mまで行われました。最下層の年代は当時の技術の限界値である3万2千年よりも昔と測定され、そこから安山岩の石器が出土。後期旧石器時代よりもさらに古い前期旧石器時代の遺物とも言われ、人類が日本列島に到達した足跡である可能性をも秘めています。

## 国指定史跡へ

日本の旧石器遺跡のほとんどが開けた場所で見つかっている中、洞窟遺跡は珍しい存在です。その中でも福井洞窟は、土器と石器が見つかった地層よりも下の層からは石器だけが出土するなど、旧石器文化から縄文文化へ移りゆく様子を今に伝える貴重な遺跡であることが判明しました。

このような価値が認められ、昭和53年には史跡として国が

最初の発見者、松瀬順一  
昭和10年、洞窟内にある福井稲荷神社本殿の建て替えの際、地中から土器や石器が大量に出土。これを研究していた吉井町の郷土史家、松瀬順一氏が資料を佐世保市文化科学館(現・島瀬美術センター)に展示したことが発掘調査のきっかけとなりました。



出土した土器片と石器

ただ一つの国指定史跡  
日本にある1709件の国指定史跡のうち、洞窟史跡は21件。中でも旧石器時代を含むのは全国で福井洞窟だけです。



ら指定を受けました。

近年の調査では洞窟の周囲からも石器が発見され、当時の人が近くで取れる安山岩を材料に石槍などを作っていたことが分かっています。

## 半世紀ぶりの発掘調査

平成17年に旧吉井町と合併し、本市は全国最多となる31の洞窟遺跡を持つ都市になりました。これをきっかけに、本市は福井洞窟をまちづくりの役立てるための基本構想を策定。生涯学習の場として史跡整備を行うことが盛り込まれたほか、資料収集などを目的とした洞窟の発掘調査を計画しました。

数年にわたる準備の末、昨年2月に半世紀ぶりとなる再発掘調査に着手しました。



- 1 昨年2月に再発掘を開始したところの様子。遺跡保護のため、横2m、縦8mの範囲に限定して実施した
- 2 地下3m近くでの発掘の様子。崩落を防ぐための安全プレートを設置して作業が行われた
- 3 発掘現場で打ち合わせを行う國學院大学名誉教授の小林達雄さん(右)と本市学芸員の柳田主任主事(左)
- 4 出土した石器の一種「細石刃(さいせきじん)」







特殊な薬剤を使って地層をそのまま剥ぎ取った発掘断面。今後、資料として展示する予定

細石刃核(上) 細石刃(下)  
細石刃は細石刃核(黒曜石)を剥がして作られるカミソリの刃ほどの小型石器で、木や獣骨と組み合わせて使用した。約1万3千年前のもの



隆起線文土器(上) 爪型文土器(下)  
約1万3千年前の地層から出土。最初期の縄文土器で、簡素な文様が施されている。煮炊きなど調理に使われていた

削器類  
加工の跡が見られる石。旧石器人は安山岩や黒曜石を材料に、槍やナイフ、削器など、調理や狩猟などの目的に応じて道具を作り分けていた



1 発掘現場を見学する児童たち  
2 ことし6月に開催した郷土史体験講座。生涯学習や研究の場として福井洞窟の役割が期待される  
3 発掘箇所を再現したコンピュータによる精巧な3次元画像。埋め戻し後に現場を確認するために作成した



深さ約5.5mまで到達し、発見された炉の跡や石敷きが見える発掘現場の最深部を見学者に案内する様子。発掘作業中には、国内外から約2千人もの見学者が訪れた

### 福井洞窟



住所 吉井町福井字岩下1013  
交通 国道204号「住吉」交差点から福井洞窟・直谷城址方面へ西肥バス松浦行・下福井バス停  
駐車場 あり(無料)  
※現在、発掘箇所は遺跡保護のため埋め戻されています。  
※発掘調査の最終報告会は、詳細が決定次第、本紙などでお知らせします。

調査の結果、人々が生活した痕跡が前回の調査よりも多く見つかかり、日本列島の人類史上まれな、旧石器時代における洞窟利用の状況を明らかにすることができました。また、数千年以上にわたって人々が洞窟で暮らしてきた中で、旧石器文化から縄文文化へと発展した様子がさらに鮮明になりました。

今回の調査では専門機関へ依頼し、最新の科学分析を実施しています。50年前にはなかった手法で光を当て、来年度には最終報告を取りまとめ

て、その後報告会を開催する予定です。

日本だけでなく東アジアの石器時代の歴史をひも解く貴重な遺跡であることが改めて認識された福井洞窟。本市では今回の調査結果を基に、遺跡の保存と整備を視野に入れながら、学術研究と生涯学習・教育の場として、まちづくりにも活用していきます。日本有数の洞窟遺跡のまちであるこの佐世保で、皆さんもぜひ考古学の世界に触れてみてください。

社会教育課 ☎24・1111

### 洞窟遺跡のまちづくりへ

### 洞窟は旧石器人の住居だった？ 国内で初となる2つの発見

発掘では地表から3・5mの地点で国内の旧石器洞窟遺跡では初めて、炉の跡が見つかりました。年代は約1万8千年前と測定され、旧石器人が火を焚いた跡と見られます。石器も一緒に見つかったことから、たき火や石器作りが行われ、一時的な雨風しのぎではなく生活の場として洞窟に定住していた可能性を示しています。

さらに地表下4・5mからは石を敷き詰めたような箇所が見つかりました。石敷きは表面の凹凸が少なくほぼ平らであることから、人為的に並べられた可能性がります。フランスの洞窟遺跡では旧石器人が住居の基礎として石を敷いていた例もあることから、石敷きを生活空間として使った可能性も含めて慎重に検討を進めています。

発掘は深さ約5・5mで岩盤に到達し、およそ1年にわたる作業は終了しました。



左) 旧石器人が火を使った炉の跡。日当たりや風通しが良い洞窟中心部で火をたいていたことが分かった  
右) 石敷きと見られる箇所を記録する作業員